

平成25年1月1日現在

診療科名		月	火	水	木	金
内科 083-901-6102	循環器科	* 藤井 英雄 (循環器・腎臓科)	小野 史朗 (循環器科)	* 藤井 英雄 (循環器・腎臓科)	小野 史朗 (循環器科)	國近 英樹 (循環器科)
		塩見 浩太郎 (循環器科)	國近 英樹 (循環器科)		塩見 浩太郎 (循環器科)	渋谷 正樹 (循環器・腎臓科)
		末富 建 (循環器科)	赤川 英三 (循環器科)		赤川 英三 (循環器科)	末富 建 (循環器科)
	腎臓科	* 藤井 英雄 (循環器・腎臓科)	今井 剛 (腎臓科)	* 藤井 英雄 (循環器・腎臓科)	今井 剛 (腎臓科)	渋谷 正樹 (循環器・腎臓科)
				渋谷 正樹 (循環器・腎臓科)		
	血液内分泌 糖尿病科	藤田 直紀 (血液内分泌・糖尿病科)	村木 和彦 (血液内分泌・糖尿病科)		村木 和彦 (血液内分泌・糖尿病科)	藤田 直紀 (血液内分泌・糖尿病科)
	消化器科	原田 稔也 (消化器科)	佐々木 敏行 (消化器科 胆臓)	花田 浩 (消化器科 肝臓)	佐々木 敏行 (消化器科 胆臓)	白石 龍 (消化器科)
	【専門外来】 ○神経内科 *古賀 道明医師の診察となります。 ○リウマチ科 *久保 誠医師の診察となります。 毎週水曜日 完全予約制 毎週金曜日 完全予約制 注) 神経内科・リウマチ科については、紹介予約枠が限られています。ご確認ください。					

外 科 083-901-6107	1 診	小 林 俊 郎 (心血管・一般)	高 橋 剛 (消化器・一般)	郷 良 秀 典 (心血管・呼吸器)	神 保 充 孝 (呼吸器・一般)	高 橋 剛 (消化器・一般)
	2 診	斎 藤 聰 (血管・一般)		岡 崎 嘉 一 (一般・血管)		
	【専門外来】○乳 腺 外 来 午前10時～午前11時 午後2時～午後3時 ○下肢静脈瘤外来 午前8時30分～午前11時					
				毎週火曜日 毎週金曜日 毎週水曜日	上杉尚正 医師の診察となります。 高橋 剛 医師の診察となります。 斎藤 聡 医師の診察となります。	

小児科 083-901-6106	1 診	休 診	休 診	* 非 常 勤 医 師	休 診	* 非 常 勤 医 師
	【受付時間】 午前8時30分～ 11時30分			【乳児検診・予防接種】 水曜日・金曜日 午前10時～11時		

耳鼻咽喉科 083-901-6124	1 診	豊 田 英 樹	随 時	豊 田 英 樹	豊 田 英 樹	豊 田 英 樹
	2 診	樽 本 俊 介	手術日	樽 本 俊 介	樽 本 俊 介	樽 本 俊 介
	○水曜日のみ午後受付あり 午後3時～4時(新患・再来)			○火曜日のみ午前9時30分～診療開始 非常勤医師による診察となります。		

脳神経外科 083-901-6109	1 診	加 藤 祥 一	湧 田 幸 雄	※ 完 全 予 約 制 湧 田 幸 雄	加 藤 祥 一	北 原 哲 博
	2 診	前 田 佳 彦	北 原 哲 博		前 田 佳 彦	

整形外科 083-901-6108 ※初診は完全紹介制	初診	井上 裕 文 (脊椎・外傷)	三 原 修 三 (肩関節・外傷)	手 術 日 ※三原・井上・大野が 順番で診察	※完全紹介予約制 岸 本 哲 朗 (脊椎・人工関節)	大 野 晃 靖 (手足の外科・末梢神経・外傷)
	再診	岸 本 哲 朗	大 野 晃 靖		井 上 裕 文	三 原 修 三

産婦人科 083-901-6122	1診	古谷信三	* 山口大学より	古谷信三	古谷信三	古谷信三
	○不妊外来(火)午前のみ		○妊婦健診(月)午後1時～午後3時30分 要予約			

眼科 083-901-6123	1 診	休 診	* 非常勤医師	休 診	* 非常勤医師	休 診
--------------------	-----	-----	---------	-----	---------	-----

皮膚科 083-901-6110	1 診	山田隆弘	山田隆弘	山田隆弘	山田隆弘	山田隆弘
	○初診は完全紹介制。 ○第3・4月曜日 * 古元礼子医師の診察となります。					

泌尿器科 083-901-6120	1 診	城 甲 啓 治	大 場 一 生	城 甲 啓 治	大 場 一 生	大 場 一 生
----------------------	-----	---------	---------	---------	---------	---------

医療機関の先生方へ

変更箇所は青色で表示しております。 *印は非常勤医師

放 射 線 科	放射線科の診療は完全予約制となっております。 放射線科検査についてのご相談は 放射線科 中村 洋 医師まで 083-901-6551	CT・MR・RIは直接ご予約できます。 CT予約 083-901-6149 予約受付 MR予約 083-901-6151 〔月曜日～金曜日 午前8時30分～午後6時〕 RI予約 083-901-6154 (※心筋シンチについては内科・循環器科にご紹介ください。)
栄 養 科	糖尿病、高脂血症、減塩等の栄養指導をお受けいたします。 個人指導・糖尿病教室 TEL 083-901-6177 FAX 083-921-0714 詳しくは栄養科へお問い合わせください。	

地域連携室 患者さんのご紹介予約は、FAXにてお受けしております。詳しくは地域連携室へお問い合わせいただくか病院ホームページをご覧ください。

予約受付
(月曜日～金曜日 午前8時30分～午後6時)

TEL083-901-6187 FAX083-928-3357
E-mail:renkei@yamaguchi.saiseikai.or.jp 担当 河嶋 裕子

「Life～ライフ～」・その他病院に関するご意見・ご要望等は、病院内に設置しております「ご意見箱」にご投函いただくか、または病院宛にご郵送等にてお願いいたします。

- 各科外来の受付時間は 午前8時30分～11時
診療開始時間は 午前9時～(曜日等により異なる場合あり)
急患の場合はこの限りではありません。
- 都合により代診・休診とさせていただく場合があります
のでご了承ください。

どうぞ、ご自由にお持ち帰りください。

地域医療支援病院
日本医療機能評価機構認定病院



山口県済生会山口総合病院

発行:地域連携推進プロジェクト 広報チーム

発行責任者:院長 湧田幸雄

〒753-8517 山口市緑町2-11 TEL:083-901-6111(代表)

理 念：私たちは地域社会に信頼され、質の高い医療を提供します。

基本方針

一、急性期病院として地域医療機関との連携を積極的に推進します。

一、良質の医療サービスを提供します。

一、目標達成のため自己研鑽につとめます。

患者さんの権利

1. 平等で適切な医療を受けること
2. 尊厳が守られること
3. 医療に関する説明や情報の提供を受けること
4. プライバシーが守られること
5. 自らの意思で医療を選択すること

年頭のご挨拶

済生会山口総合病院

院長 わく た 湧田 ゆき お 幸雄



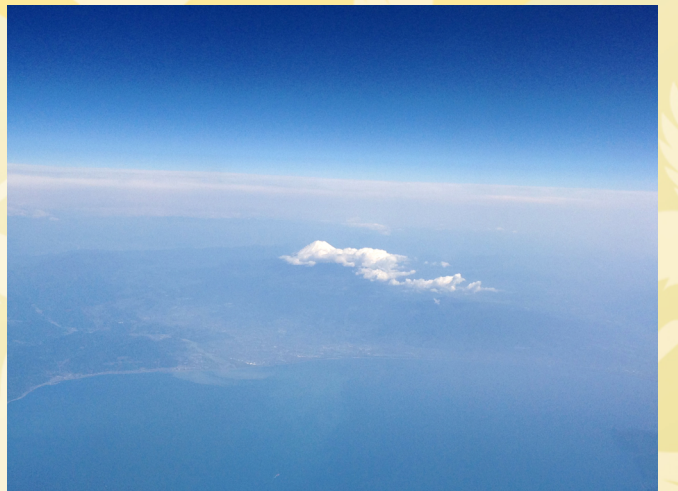
明けましておめでとうございます。平素から当院をご支援いただき大変ありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年の病院目標は、1) 済生会の理念の推進、2) 急性期医療・二次救急医療の充実、3) きめ細かい地域連携、4) 病院の質の向上です。これらの目標達成のために昨年から5つのプロジェクトと2つの重点課題の取り組みを開始しています。「済生会の理念の推進」は、無料低額診療となでしこプランの推進です。「急性期医療・二次救急医療の充実」は、救急受け入れから入院までの流れの改善を行っています。「きめ細かい地域連携」は、地域連携パスの更なる展開、広報活動も地域連携の一環と捉え、このLife 52号から編集責任を担っています。「病院の質の向上」は、最大のテーマです。敢えて医療の質の向上から病院の質の向上へ換えました。更なる医療安全への取り組み、病院組織の強化と人材の育成、臨床指標の向上と情報公開、第三者評価としての病院機能評価の受審です。

当院は地域医療支援病院として地域の医療レベルを上げることが重要な使命です。それは単に紹

介・逆紹介が円滑に行くとか、高度医療機器を共同利用するということだけではありません。むしろ地域の医療・介護スタッフの知識・技術のレベルアップがより重要であると考えています。一昔前は急性期病院にしか求められていなかった厳密な医療安全、感染対策、褥瘡予防等が、今やすべての診療所や介護福祉施設、更に在宅でも求められています。またこうした現状を広く地域の人々にも理解してもらい、地域全体の医療・介護のレベルアップを図らなければなりません。そのためには急性期病院が行ってきた様々な経験や取り組みを地域の方々に広く利用していただきたいと考えています。

さて、政治・経済は流動的で、今年も医療環境は変化して行くことが予想されますが、どのような状況であれ我々は山口地域において最良の医療環境を構築していく努力を続けて参りますのでご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



▲ 飛行機から見た富士山（撮影：湧田院長）

濟生会山口総合病院情報誌

平成25年1月10日発行

濟生会山口総合病院
〒753-8517 山口市緑町2-11

TEL 083-901-6111(代表)
FAX083-921-0714

高血圧 との つきあい方



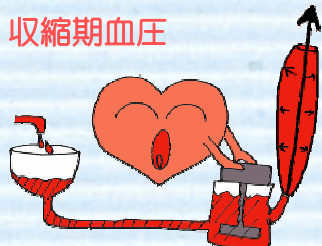
昨年12月7日に当院4階大会議室で行われた健康講座「高血圧のおはなし」では、沢山の方々にご参加を頂きました。それだけ多くの方が血圧について関心があることが分かりました。今回のライフでは健康講座に参加されなかった方にも、高血圧のことを知っていただけるように、Q&A形式にして血圧のマメ知識や高血圧とのつきあい方についてお伝えしたいと思います。

内科部長 塩見 浩太郎（専門：循環器科）

Q1 血圧とは何ですか？

A 心臓が血液を送り出す圧力のこと。
血管の負担と言い換えることができます。

収縮期血圧

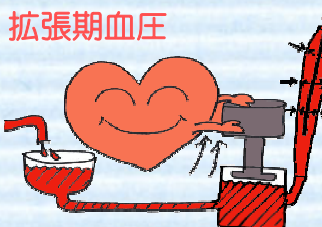


Q2 血圧には、上の値と下の値があります。

どういうことですか？

A 専門的には収縮期血圧と拡張期血圧と言います。右図のように心臓が収縮して血液を送り出している時の血圧を収縮期血圧、心臓が拡張して血液を溜めている時の血圧を拡張期血圧と言います。

拡張期血圧



Q3 どの値から高血圧というのでしょうか？

A 日本高血圧学会の分類では、診察室で測定した血圧の値から以下のように分類しています。

高血圧：収縮期血圧140mmHg以上 または 拡張期血圧90mmHg以上

Q4 なぜ高血圧が恐ろしいのですか？

A 血管の老化が早く進行するからです。高血圧を放置しておく、血管そのものや心臓や腎臓などの臓器の障害が早い時期に出てしまうという事なんです。血圧が高くても症状が無いので、このままじゃ危険だという実感が湧かない事も厄介です。



Q5 高血圧といわれたらどうすればよいですか？

A 病院を受診してどの様なタイプの高血圧なのかチェックしてもらいましょう。さらに、心臓や腎臓などの臓器の障害が既に出ていないかも調べてもらいましょう。そして各人に合った治療の方針を計画してもらいましょう。

Q6 高血圧とどのようにつきあっていけばよいですか？

A 生活習慣の改善や薬によって、末永く血圧を下げて血管の老化を遅らせましょう。脳卒中や心臓病、腎臓病などによって寿命を縮めたり、生活の質を落とさないようにしましょう。元気で長生きをするためには血圧を生涯に渡って管理する事が大切です。血圧を管理するコーチ役として高血圧のかかりつけ医を持ちましょう。



インフルエンザの予防と治療

インフルエンザウイルスは寒くて乾燥している場所を好みます。12～3月はインフルエンザの流行するシーズンです。感染しないために普段から予防を心がけましょう。

インフルエンザにかからないために

- ・外出後は手洗い、うがいをしましょう。
- ・室内を温かくし、加湿(湿度50～60%が理想的)をしましょう。
- ・十分な睡眠とバランスのとれた栄養摂取をこころがけましょう。
- ・流行している時は人混みを避けましょう。やむを得ない場合は、不織布製マスクを着用することも対策のひとつです。

もしもインフルエンザかなと思ったら

インフルエンザの症状

…38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。併せてのどの痛み、鼻汁、咳などもみられることがあります。

- ・具合の悪い場合は早めに受診しましょう。特に小児、高齢者、基礎疾患のある方は重症化しやすいので注意が必要です。インフルエンザの治療薬には内服薬、吸入薬、注射薬などいくつかの種類がありますが、どの薬も発症から48時間以内に開始しないと十分な効果が期待できません。また、用法、用量、服用する日数を守ることも大切です。
- ・安静にし、睡眠を十分にとりましょう。部屋は温かくし、加湿しましょう。
- ・水分を十分にとりましょう。
- ・発症してから3～7日間はウイルスを排出するといわれています。外出は控えましょう。

NEW

広報チーム発足のご案内

この度、院内地域連携推進プロジェクト活動の一環として、広報チームが発足いたしました。現在、院内では救急体制強化、地域連携推進、医療事故防止、QI（Quality Indicator：医療の質の評価）、組織人材と5つのプロジェクトが設置されており、これらは新病院建設に向けての土台作りとなるものです。その中でも広報活動は重要な位置づけがなされており、広報活動による情報発信は患者さんと病院とを結ぶ「架け橋」になるものと考えております。2013年1月号より、この広報誌“Life”を13人のメンバーで作成していきます。より充実した情報を発信すべく、頑張っていく所存でございますので、何卒よろしくお願いいたします。

（地域連携推進プロジェクト
広報チーム 大場一生）

